

千葉県八千代市

市内遺跡発掘調査報告

平成6年度

八千代市教育委員会

例 言

1. 本書は八千代市内に所在する新林遺跡、二重堀遺跡、追分遺跡・追分古墳、ツイノ作南遺跡の発掘調査の報告書である。
2. 調査は、八千代市教育委員会が平成6年度市内遺跡発掘調査事業として国庫及び県費の補助を受けて実施した。
3. 調査遺跡の所在地、期間、面積、調査原因は下記のとおりである。

No	遺跡名	所在地	調査期間	面積	調査原因
1	新林遺跡	上高野字新林1202-1他	6.12.7 ～6.12.28	1,150㎡ ／15,500㎡	戸建住宅建設
2	二重堀遺跡	上高野字新林1208-1	6.12.19 ～6.12.21	150.5㎡ ／832.25㎡	駐車場建設
3	追分遺跡・ 追分古墳	島田台字追分736-1の一部、 736-2の一部	7.1.12 ～7.1.24	276㎡ ／2,567.86㎡	墓地造成
4	ツイノ作南 遺跡	大和田新田字ツイノ作911-1、 912-1	7.3.8 ～7.3.28	1,592㎡ ／15,000㎡	共同住宅建設

4. 整理作業及び報告書作成作業は平成7年3月13日から3月28日までの期間行なった。
5. 本書の執筆はⅠを森竜哉が、Ⅱを武藤健一が行なった。
6. 本書の出土遺物の実測は武藤健一が、掲載写真の撮影は森竜哉、武藤健一が行なった。

目次

I 調査に至る経緯	1
II 各遺跡の概要	3
1. 新林遺跡	3
2. 二重堀遺跡	8
3. 追分遺跡・追分占墳	12
4. タイノ作南遺跡	15
報告書抄録	17
調査組織	

挿図目次

第1図 市内遺跡位置図	2	第10図 二重堀遺跡第1号土坑実測図	10
第2図 新林遺跡位置図	3	第11図 二重堀遺跡第2号土坑実測図	11
第3図 新林遺跡遺構検出状況図	4	第12図 二重堀遺跡第2号土坑出土遺物	11
第4図 新林遺跡土層断面図	5	第13図 追分遺跡・追分占墳位置図	12
第5図 新林遺跡土坑実測図	6	第14図 追分遺跡・追分占墳 遺構検出状況図	13
第6図 新林遺跡土坑出土遺物	6	第15図 追分遺跡土層断面図	14
第7図 二重堀遺跡位置図	8	第16図 タイノ作南遺跡位置図	15
第8図 二重堀遺跡遺構検出状況図	9	第17図 タイノ作南遺跡遺構検出状況図	16
第9図 二重堀遺跡土層断面図	9		

図版目次

図版1 新林遺跡	18
(1) 土層断面 (L-13グリッド西壁)	(4) 土坑完掘状況
(2) 調査風景	(5) トレンチ出土遺物
(3) 土坑検出状況	(6) トレンチ出土遺物

図版2 二重堀遺跡 19

- (1) 第1号土坑検出状況
- (2) 第1号土坑完掘状況
- (3) 第2号土坑検出状況
- (4) 第2号土坑完掘状況
- (5) 第2号土坑出土遺物
- (6) 調査風景

図版3 追分遺跡・追分古墳 20

- (1) 調査前遺跡全景
- (2) 古墳近景
- (3) 土層断面
- (4) 調査風景
- (5) 古墳トレンチ完掘状況
- (6) 古墳トレンチ完掘状況

図版4 ツイノ作南遺跡 21

- (1) 調査風景
- (2) 住居跡検出状況
- (3) 住居跡検出状況
- (4) 住居跡検出状況
- (5) 土坑検出状況
- (6) 溝状遺構検出状況

図版5 ツイノ作南遺跡 22

- (1) トレンチ出土遺物
- (2) トレンチ出土遺物

I 調査に至る経緯

本市は東京への通勤圏として、住宅地の確保とそれに伴う諸施設の整備のため、開発事業が顕著である。そのため、埋蔵文化財の保護のため県教育委員会の指導のもとに、埋蔵文化財の所在の有無にかかる照会制度により対処してきたところである。

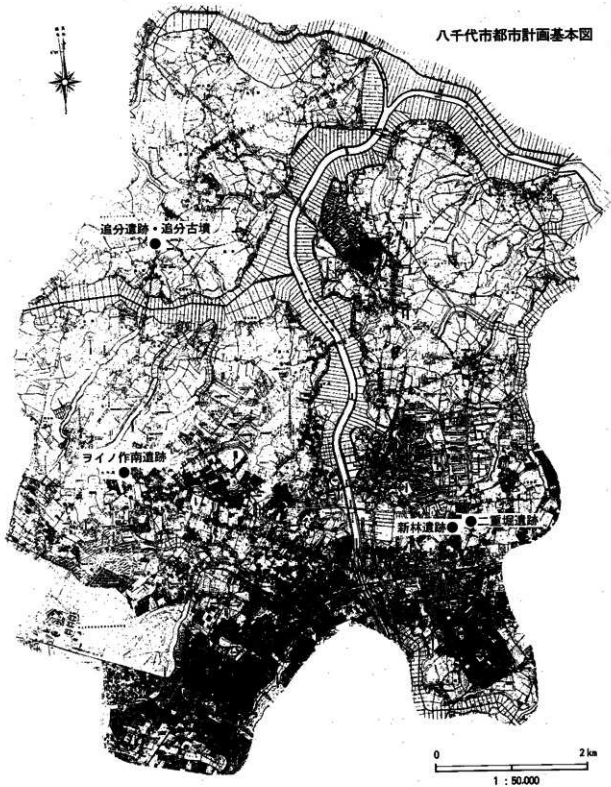
調査した遺跡

新林遺跡 平成5年12月、柳江口より集合住宅建設のため、埋蔵文化財の有無についての照会が提出された。周知の遺跡の範囲内であり、隣接地の畑において縄文土器などが散布している状況から遺跡の所在が想定された。その旨県文化課へ副申し、事業者に県による遺跡が所在する旨の回答後、協議が進められた。途中、事業内容が戸建住宅建設に変更されたが、継続して協議を行なった。現況は山林及び野球グラウンドであり、とくに山林については伐採計画が決定していなかったため、下草除草後、諸準備が整った段階で確認調査を実施した。

二重堀遺跡 平成6年6月、網島寅次氏より駐車場敷設のため、埋蔵文化財の有無についての照会が提出された。周知の遺跡の範囲内であり、隣接地において平成5年4月～9月に実施した本調査で、縄文時代前期の遺構が検出されていることから、遺跡が所在する可能性が高いと判断された。そのため、事業者に遺跡が所在する旨回答後、協議が進められた。平成6年12月に確認調査を実施した。

追分遺跡・追分古墳 平成6年9月、宗教法人安養院より墓地造成のため、埋蔵文化財の有無についての照会が提出された。周知の遺跡の範囲内であり、隣接地の畑において平安時代土師器などが散布する状況から遺跡の所在が想定された。また、照会地内に古墳が1基所在することから、事業者が古墳1基を含む遺跡が所在する旨回答した。その後の協議により当初の計画変更が難しいことから、諸準備が整ったのち、確認調査を実施した。

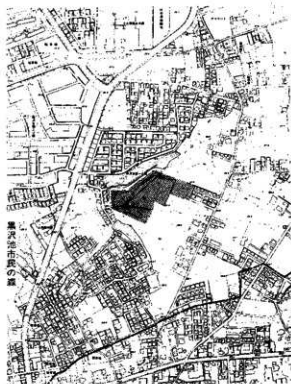
ライノ作南遺跡 平成6年10月、安原徳氏より共同住宅建設のため、埋蔵文化財の有無についての照会が提出された。隣接地において昭和63年の5月～6月の間に実施した本調査により、縄文時代前期の竪穴住居跡が検出されていることから、当該地にも遺跡の所在が想定された。また、照会地内の飼料畑から縄文土器が出土していることを含め、県文化課に副申しした。その後遺跡が所在する旨の県による回答後、協議を進めた。諸準備が整ったのち、平成7年3月確認調査を実施した。なお、今年度は全体面積24,931㎡のうち15,000㎡について確認調査を実施した。



第1図 市内遺跡位置図

II 各遺跡の概要

しんばやし 1. 新林遺跡



第2図 新林遺跡位置図

遺跡の立地と概要

新林遺跡は新川の東岸、辺田前から東に入り込む谷の最奥部の台地上に位置している。調査区は小さな舌状台地の先端部とその北側の小支谷である。標高は約18m～27mを測り、台地と谷の比高差は約9mである。調査区の現況は、北側の小支谷と台地斜面部が台地上と同じ高さまで盛土造成されており、現在野球グラウンドと荒地になっている（第3図 …… の範囲）。他は山林である。

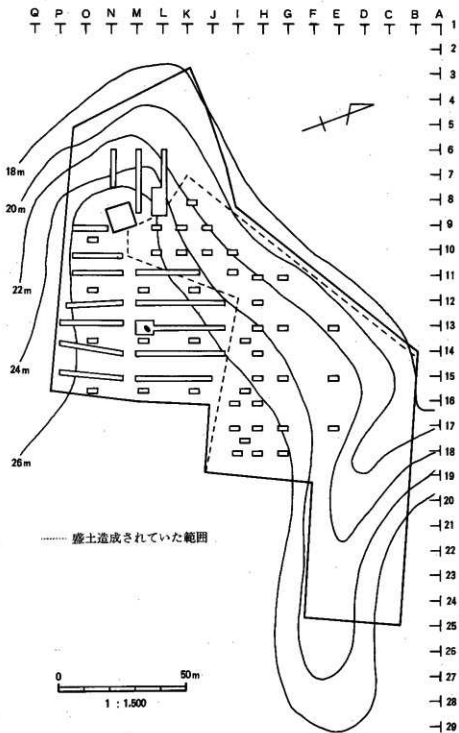
調査区の南東の近接地は、今年度本調査を実施しており、縄文時代早期の陥し穴8基と、溝状遺構1条が検出されている。また調査区の谷を挟んだ北側には、二重堀遺跡が位置している。二重堀遺跡は、平成5年度に本調査を実施しており、先土器時代

の遺物集中地点2箇所と、縄文時代前期浮島期の堅穴状遺構1基、土坑35基、同時期の遺物包含層1箇所が検出されている。

調査の方法と経過

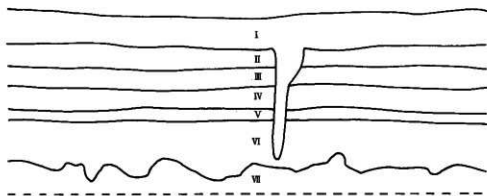
調査は調査区の形状に沿って10m方眼を組んだのち、これに平行する形で2m×4mのトレンチを設定して実施した。ただし山林部に関しては伐採前であったため、立木間をぬって2m×15～35mの長めのトレンチを設定して実施した。その後調査が進むにしたがい遺構・遺物とも非常に稀薄であることが判明したため、遺構検出部分のトレンチを拡張し遺構の調査を実施した。

調査期間は平成6年12月7日～12月28日で、12月19日～12月21日の期間は後述する二重堀遺跡と並行で調査を進めた。調査の経過は、7日午前器材搬入、7日午後～8日方眼杭設定、トレンチ設定、9日～14日人力による包含層確認掘削作業、14日～19日重機による表土除去、15日～21



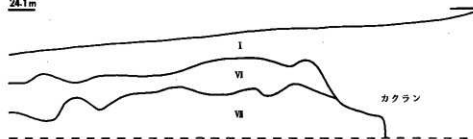
第3図 新林遺跡遺構検出状況図

27.3m



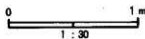
L-13グリッド西壁

24.1m

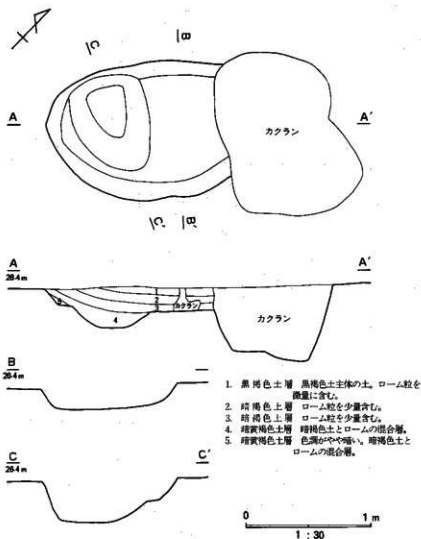


M-6グリッド北壁

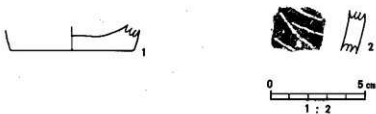
- I 表土層
- II 黒色土層
- III (暗)褐色土層 (新期テフラ層)
- IV 暗褐色土層
- V ローム漸移層
- VI ソフトローム層
- VII ハードローム層



第4図 新林遺跡土層断面図



第5図 新林遺跡土坑実測図



第6図 新林遺跡土坑出土遺物

日遺構検出作業、遺構発掘作業、22日～26日実測・撮影等記録作業、26日午後器材撤収、27、28日重機による埋め戻しにより調査を終了した。

調査の概要

調査区の基本層序は、I表土層、II黒色土層、III(暗)褐色土層(新期テフラ層)、IV暗褐色土層、Vローム漸移層、VIソフトローム層、VIIハードローム層となっている。ただし斜面部においては、I表土層直下がVIソフトローム層となっているところが多くみられる。また現在野球グラウンド・荒蕪地になっている北側の小支谷と台地斜面部は、VIソフトローム層まで削土後に盛土造成されているため、盛土直下はVIIハードローム層となっている。

今回の調査では、縄文時代の土坑1基を検出したのみで、他に遺構は検出できなかった。遺物は、縄文土器(前期:浮島式、中期:五領ヶ台式、阿玉台式、加曾利E式、後期:柴ノ内式、加曾利B式等)が少量出土している。遺物は全て山林部に設定したトレンチからの出土である。

縄文時代の土坑は、L-13グリッドより検出された。検出面はソフトローム上面である。一部攪乱を受けているが、平面形は長径1.9m(推定)×短径1.1mの長楕円形を呈するものと思われる。壁は斜めに掘り込まれており、深さは0.2mを測る。底はほぼ平坦で、長径0.8m、短径0.6m、深さ0.15mのピットがみられる。遺物は縄文土器の小片が2片出土している。第6図1は深鉢の底部である。2は前期終末～中期初頭の所産と思われる。

調査のまとめ

今回の調査では、小支谷と台地斜面部がVIソフトローム層まで削土後に盛土造成された状態であったため、調査の主体は瘦せ尾根状の台地平坦部であった。調査の結果、縄文時代の土坑1基と少量の縄文土器を検出することができた。この結果が示すように今回の調査区は遺構・遺物とも分布が非常に稀薄な地域であったということがいえるであろう。

にじゅうほり
2. 二重堀遺跡



第7図 二重堀遺跡位置図

を拡張し遺構の調査を実施した。

調査期間は平成6年12月19日～12月21日で、19日器材搬入、方眼杭設定、トレンチ設定、20日重機による表土除去、遺構検出作業、遺構発掘作業、実測・撮影等記録作業、重機による埋め戻し、21日器材撤収により調査を終了した。

調査の概要

調査の結果、縄文時代の土坑2基を検出した。調査区の現況は畑地であったが、農耕用トラクターによる攪乱がひどいため、遺構検出作業は表土・耕作土下のソフトローム上面で行なった。遺物は、縄文土器（前期：浮島式、興津式、中期：五領ヶ台式等）の小片が少量出土している。

(1) 第1号土坑

本土坑はB-2グリッドより検出された。平面形は長径1.48m×短径0.88mの楕円形を呈しており、深さは0.35mを測る。底はほぼ平坦で、壁は斜めに掘り込まれている。遺物の出土はなかった。

(2) 第2号土坑

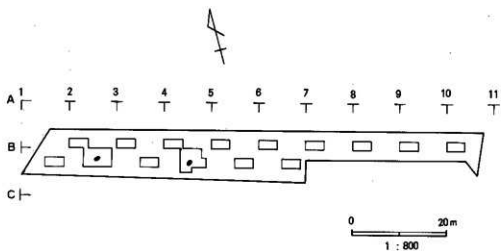
遺跡の立地と概要

二重堀遺跡は新川の東岸、辺田前から東に入り込む谷の最奥部の台地上に位置しており、標高は27m前後を測る。

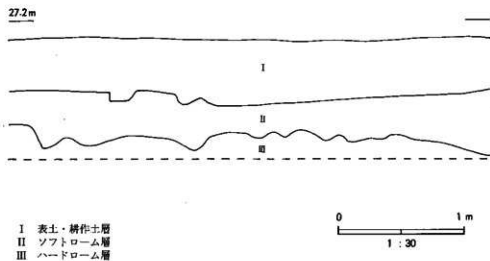
調査区の北側隣接地は、平成5年度に本調査を実施しており、先土器時代の遺物集中地点2箇所と、縄文時代前期浮島期の竪穴状遺構1基、土坑35基、同時期の遺物包含層1箇所が検出されている。調査区の現地踏査においても、縄文土器（前期～後期）の散布が少量であるが確認されている。

調査の方法と経過

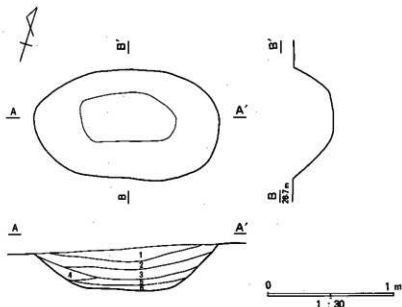
調査は調査区の形状に沿って10m方眼を組んだのち、これに平行する形でトレンチを設定して実施した。しかし調査が進むにしたがい遺構・遺物ともに稀薄であることが判明したため、遺構検出部分のトレンチ



第8図 二重掘遺跡遺構検出状況図



第9図 二重掘遺跡土層断面図



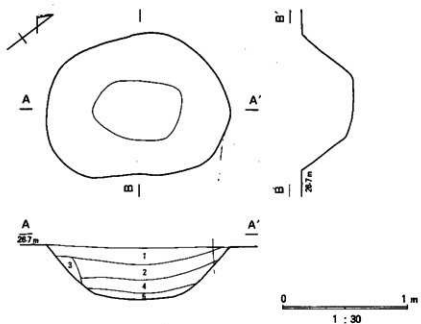
1. 黒褐色土層 黒褐色土主体の上、ローム粒を微量に含む。
2. 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
3. 暗褐色土層 色調がやや暗い、ローム粒を少量含む。
4. 黄褐色土層 ローム主体の上、暗褐色土を少量含む。
5. 暗褐色土層 ローム粒を多数に含む。
6. 増賞褐色土層 暗褐色土とロームの混合層。

第10図 二重堀遺跡第1号土坑実測図

本土坑はB-4グリッドより検出された。平面形は長径1.45m×短径1.13mの楕円形を呈しており、深さは0.43mを測る。底はほぼ平坦で、壁は斜めに掘り込まれている。遺物は前期浮島式土器の小片が数片出土している。第12図1は半截竹管による平行沈線が施されている。2、3は波状貝殻文が施されている。4、5は三角文が多段にわたって施されている。

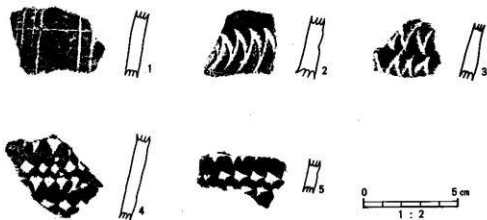
調査のまとめ

今回の調査では縄文時代の土坑2基を検出することができた。第2号土坑は出土遺物から前期浮島期の所産と思われる。第1号土坑は遺物の出土がないものの、トレンチ出土の遺物等から第2号土坑と同じく前期浮島期の所産と考えてよいと思われる。調査区の北側隣接地では同時期の土坑群が調査されており、今回検出した土坑2基もその土坑群の広がり的一部として捉えることができるであろう。



1. 黒色土層 ローム粒を少量含む。
2. 黒褐色土層 ローム粒を少量含む。
3. 黄褐色土層 ロームブロック。
4. 暗褐色土層 ローム粒を少量含む。
5. 暗黄褐色土層 暗褐色土層とロームの混合層。

第11図 二重掘遺跡第2号土坑実測図



第12図 二重掘遺跡第2号土坑出土遺物

3. 追分遺跡・追分古墳



第13図 追分遺跡・追分古墳位置図

れており、大日如来像が祀られている。

調査の方法と経過

調査は調査区の形状に沿って10m方眼を組んだのち、これに平行する形でトレンチを設定して実施した。追分古墳に関しては古墳か塚かを確定する目的で十字にトレンチを設定し、周溝の存在が想定される墳丘裾部のみ調査を実施した。

調査期間は平成7年1月12日～1月24日で、12日器材搬入、方眼杭設定、トレンチ設定、13日重機による表土除去、17、18日遺構検出作業、19、20日実測・撮影等記録作業、20日午後器材撤収、24日重機による埋め戻しにより調査を終了した。

調査の概要

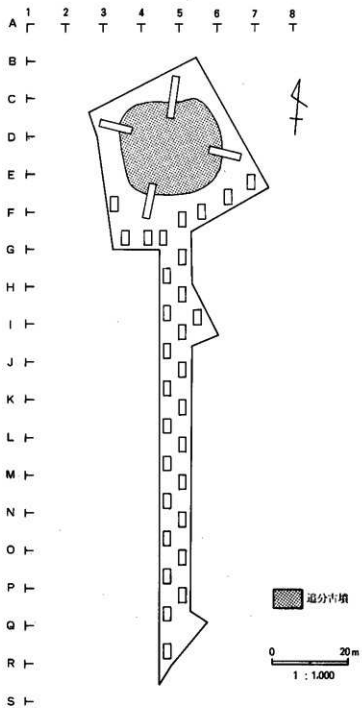
調査区の現況は、畑地と農道であった。基本層序は、Ⅰ表土・耕作土層、Ⅱ暗褐色土層、Ⅲローム漸移層、Ⅳソフトローム層、Ⅴハードローム層となっているが、農耕用トレンチャーによる攪乱がひどいために遺構検出作業はソフトローム上面で行なった。しかし調査の結果、遺構は検出することができなかった。遺物は縄文土器（中期終末～後期初頭）の小片が4片出土したのみで

遺跡の立地と概要

追分遺跡・追分古墳は桑納川北岸の台地中央部に位置しており、標高は23m前後を測る。

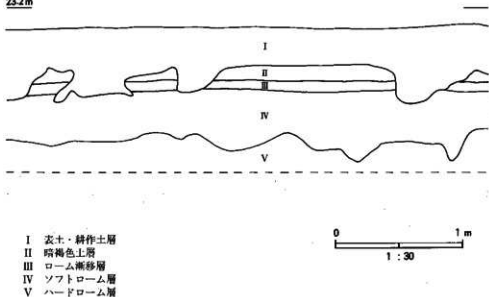
調査区の西側近接地は、平成5年度に確認調査を実施しており、縄文時代の土坑10基、同中・後期の遺物包含層1箇所、平安時代の住居跡6軒、方形周溝状遺構1基が検出されている。調査区の現地踏査においても、平安時代の土師器の散布が稀少であるが確認されている。

追分古墳は、台地上中央部に単独で所在しており、約150m南に中・近世の塚が数基（作ヶ谷津庚申塚）存在するだけで周辺に古墳は見当らない。また墳丘自体も未調査であるため古墳か塚かも確定できていない状況である。現在墳頂部には祠が設けら



第14図 追分遺跡・追分古墳遺構検出状況図

23.2m



第15図 追分遺跡土層断面図

ある。

追分古墳は、東西約27m、南北約25m、高さ約2.5mの規模を誇り、形状は隅丸方形を呈することが確認された。また墳丘裾部のトレンチ調査の結果、周溝は検出することができず、裾部における盛土も全体にしまりが無い軟弱な黒色土であった。遺物は土師器（平安時代）の小片が2片出土したが、古墳に伴うものではなかった。

調査のまとめ

今回の調査では、遺構は検出することができず、遺物も土器が数片出土したのみであった。調査区周辺は遺構・遺物とも分布が稀薄な地域であるということができようであろう。

追分古墳は墳丘裾部の調査の結果、周溝は検出されず、古墳に伴う遺物も皆無であった。前述した古墳の立地と今回の調査結果から判断すると、追分古墳は中・近世の塚の可能性が高いといえる。

4. さくみなみライノ作南遺跡



第16図 ライノ作南遺跡位置図

遺跡の立地と概要

ライノ作南遺跡は桑納川の吉橋付近から南側に入り込む谷の最奥部の舌状台地上に位置しており、標高は27m前後を測る。

調査区北側の舌状台地先端部の隣接地においては、昭和63年度に本調査を実施しており、縄文時代前期関山期の住居跡4軒と土坑14基、溝状遺構1条が検出されている。調査区の現況は飼料畑となっており、現地踏査においても縄文土器（前期）の散布が少量であるが確認されている。

調査の方法と経過

調査は調査区の形状に沿って10m方眼を組んだのち、これに平行する形でトレンチを設定して実施した。

調査期間は平成7年3月8日～3月28日

で、8日器材搬入、方眼杭設定、9、10日トレンチ設定、13、14日人力による包含層確認掘削作業、15日～20日重機による表土除去、15日～22日遺構検出作業、23、24日実測・撮影等記録作業、27、28日重機による埋め戻し、28日午前器材撤収により調査を終了した。

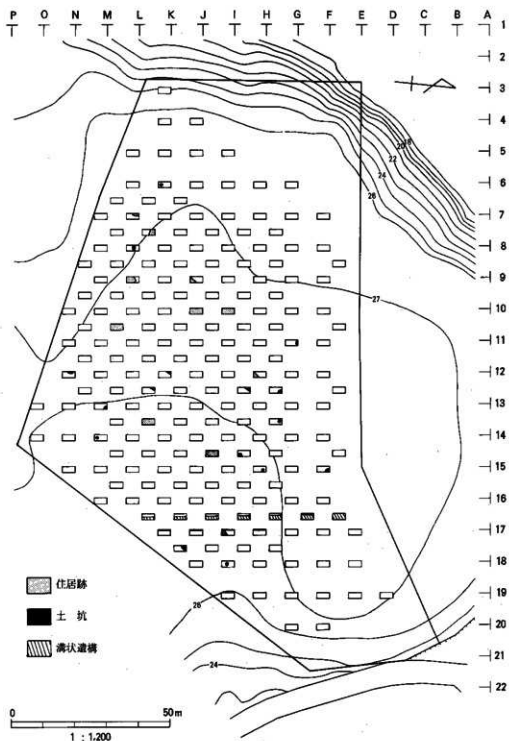
調査の概要

調査区の基本層序は、I表土・耕作土層、II黒色土層、III暗褐色土層、IVローム漸移層、Vソフトローム層、VIハードローム層となっている。遺構検出作業は、III層下部～IV層で行なった。

調査の結果、縄文時代前期の住居跡14軒、土坑12基、時期不明の溝状遺構1条を検出した。遺物は縄文時代前期の関山式と黒浜式が主体を占めており、他に早期（条痕文系）、前期（浮島式等）、中期（五領ヶ台式、阿玉台式等）が少量出土している。

調査のまとめ

今回の調査では縄文時代前期の住居跡14軒を検出することができた。出土遺物からこれらの住居跡は関山～黒浜期にかけての所産と考えられる。前回の調査と今回の調査結果から舌状台地上における関山～黒浜期にかけての集落の展開が明らかになったといえるであろう。



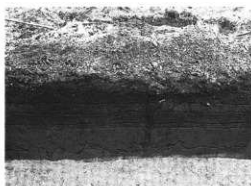
第17図 ライノ作南遺跡遺構検出状況図

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばげんやちよししないいせきはつちつちようさほうこく
書名	千葉県八千代市内遺跡発掘調査報告 平成6年度
編著者名	森竜哉・武藤健一
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276 千葉県八千代市大和田新田312-5 TEL. 0474-83-1151
発行年	西暦 1995年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ・・・	東経 ・・・	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
新林遺跡	八千代市上高野字新林 1202-1他	1222	233	35度 42分 33秒	140度 8分 00秒	19941207 ～ 19941228	1,150㎡ ／15,500㎡	戸建住宅 建設
二重堀遺跡	八千代市上高野字新林 1208-1	1222	231	35度 42分 35秒	140度 8分 3秒	19941219 ～ 19941221	150.5㎡ ／832.25㎡	駐車場建設
追分遺跡・ 追分古墳	八千代市島田古字追分 736-1の一部 736-2の一部	1222	46・45	35度 44分 11秒	140度 5分 18秒	19950112 ～ 19950124	276㎡ ／2,567.86㎡	墓地造成
タイノ作南 遺跡	八千代市大和田新田 911-1、912-1	1222	-	35度 43分 30秒	140度 4分 59秒	19950308 ～ 19950328	1,592㎡ ／15,000㎡	共同住宅 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新林遺跡	散布地	縄文時代	土坑1基	縄文土器	なし
二重堀遺跡	散布地	縄文時代	土坑2基	縄文土器	なし
追分遺跡・ 追分古墳	散布地 塚	平安時代 中・近世	塚1基	縄文土器 平安時代土師器	なし
タイノ作南 遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡 14軒 土坑 12基 溝状遺構 1条	縄文土器	なし



(1) 土層断面 (L-13グリッド西壁)



(2) 調査風景



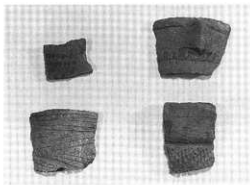
(3) 土坑検出状況



(4) 土坑完掘状況

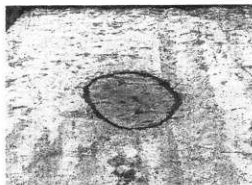


(5) トレンチ出土遺物

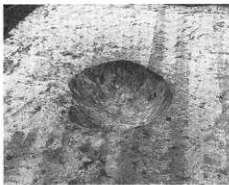


(6) トレンチ出土遺物

图版2 二重堀遺跡



(1) 第1号土坑検出状況



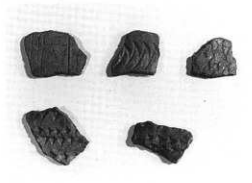
(2) 第1号土坑完掘状況



(3) 第2号土坑検出状況



(4) 第2号土坑完掘状況



(5) 第2号土坑出土遺物



(6) 調査風景

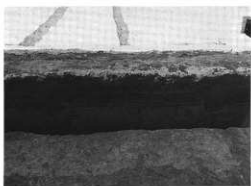
図版3 追分遺跡・追分古墳



(1) 調査前遺跡全景



(2) 古墳近景



(3) 土層断面



(4) 調査風景



(5) 古墳トレンチ完掘状況



(6) 古墳トレンチ完掘状況

図版4 ライノ作南遺跡



(1) 調査風景



(2) 住居跡検出状況



(3) 住居跡検出状況



(4) 住居跡検出状況

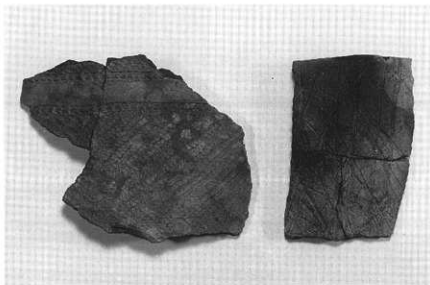


(5) 土坑検出状況

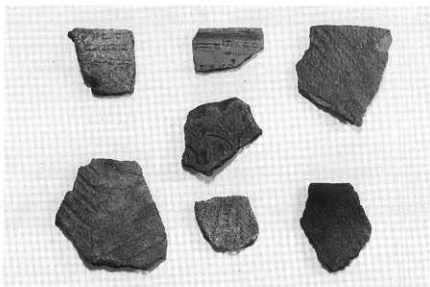


(6) 溝状遺構検出状況

図版 5 ライノ作南遺跡



(1) トレンチ出土遺物



(2) トレンチ出土遺物

調 査 組 織

調査主体者	磯貝謙吾 (八千代市教育委員会教育長)
事務担当者	八角敏正 (八千代市教育委員会生涯学習部長) 今井利久 (八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課長) 大沼秀彦 (八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課主幹) 酒井久男 (八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係長) 赤羽克則 (八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係副主査) 秋山利光 (八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係主事) 森 電哉 (八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係主事)
調査担当者	武藤健一 (八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化係主事)
調査補助員	磯江公子 岩井アヤ 岩瀬道子 遠藤啓子 笠川千代子 木村しづ子 小島保江 斉藤節子 田村美恵子 東原和男 寺島稲子 中尾恭子 早坂英子 原田雪子 阿部るみ子 小柳英世 草薙芳子 平田三恵子 矢尾ヤス子
整理補助員	磯江公子 岩井アヤ 岩瀬道子 木村しづ子 斉藤節子 東原和男 中尾恭子 早坂英子 原田雪子

千葉県 八千代市
市内遺跡発掘調査報告

印刷日 1995年3月28日
発行日 1995年3月31日
発行 八千代市教育委員会
生涯学習部社会教育課
〒276 八千代市大和田新田312-5
TEL. 0474 (83) 1151
印刷 南八千代印刷